

有る後之のちも俱く免たる記後より
各々心得秀吉國へ歸陣迄の誓紙を被
立しきり地を争ふ事休むべき也

一 助八敵陣見及可中目録ハ毛利陣を立人
数より可出や和と一時罷せよ此境幾所
を切放しを河下たんとすハ則時小
海より可成りや毛利家人數此海押後る
事一兩日内を和のいもより成る後や山の
手より和を道に染入る事とせよ是

又一つり一万と可出括出見し以て
を照ふ日此ハハ時分ましく見及よ和を
子面するハとや可成り也と助八
に和を置と事

一 毛利家合より備前此字森多八郎等と
成の刻りなりらに和退兵能は内事を裁の
五比別子引退兵成と事

一 毛利家上方に被和置は子歩四日とせらる
りしり素着候信長公二日此郊の刻り

所切後は何とて進んで成とせんか
 うは四条堀川は通りと強炮きりく
 且中の町人も大いに行き計りて進
 てた系とてく町く此とてぬふ城町
 免一急り人をかし不中の本能寺
 且明智及内溝尾少兵衛後町と志門まり
 修へ別の子細さくは惟任日向方
 より天下後、所放し智活中地子と
 所免と成作と町とと婦とにこそ
 明智及此

謀叛とは志終中にて申分たらち中修り

- 一 それより若川 駿河守元喜陣屋小早川
 左衛門元隆宗完戸備前守奇合談合此
 次第去今日乃誓紙を破りて之を不苦候
 たまかき進んての候よりと若川駿河守
 被中格うはか格乃付りて馬と宗教を
 よとやくと進め給ふ事

- 一 舎弟小早川左衛門元隆宗右子ハ一言を
 不出を誓ふ事して江中出候子と云成所意

此心もくくハハ彦ノ人其昔より子今もより
 何事をも其の如く免る書物誓紙を
 読り仕ゆ然もくハ父ノ元就公侍死
 去乃時仕ハ誓紙ハ只今此輝元公と兄弟
 共とて立よとの誓紙は所存の時日乃
 下此判々元喜公被拜ハ次子ハ私仕ハさレ
 兄弟四人仕元就公侍命此内より侍目に
 熟く事ハ此今乃根ハ覺ハ誓紙元就公
 戴一々元就公此ハ遺言子承ト人ハ入

一ツ名巖崎の明神ハ事終よ一通ハ輝元公ハ
 上ヶ置中以此二通者只今も此読之ハ條數
 ノ内より名利家より我死ハ後天下乃
 不可心無と一の事ハ侍彦ハ事

一 今日の記請文と破りハ其をハとハ此
 此症ハ父元就公への別心や一ツ名巖崎の明神
 能侍罰又ハ五常乃礼儀此二ハ破子ハ
 更相柴根守國奉播磨ハ歸城ハとハ一
 左女と聞右屋ら建事ハ馬とハ

候くも不若と喜ぶ兄の元春へ是見は中
有る元春も隆景より道理に攻め合点
り納中は小早川をそれより我陣へ被
戻り奉

一 小早川隆景舎兄元春乃陣屋へ目付候
是出候も同好孫歸中上様子を何うは不
成は涉馬屋子と難とわくせ家中も又生
通とお見へ中は完戸備前守陣も右へ通にお
見へ中はと申へ候も隆景是見と申上り候小

隆景と立歸は素と違ふ所立候もやあ候
候へる程も毫も角も何れもいあ違不及是
非次第之去るも極置紙は破り候と定一通
乃は候も我お所へ可成候立中

一 小早川左衛門元隆宗陣中志門め程違へん
た免りや務御新右衛門井上又右衛門此兩人
と右左衛門若右出せし者の意をい何
もくも不若に候と志し候とせよとや
くし候候身は兩人畏り候中上則

後者此者と右出を家中に及是る心は然ふ
事なりと云ふ人信長公は切腹を満足せ
思召る然祝ふ不審不睦と下るるは沙汰仕
り奉

一 後者此者の沙汰程仕とや乱舞初る
計と見え中之意より同出度取らんとし、修羅
さとの程程所らうとい可中と心不巧され
中ら置りし猶同新古事乃至は指公將小
福と一番うとい出に四海波静くく國

とおとまは時津風と中は海後者此の
事と目出度と公將高砂波是五番と其内
三編は程の古く猶同新古事の次の間へ立
見まじくく人さきたるれや好道衣一と人
何足るるとれつ是亦の事候の事より一と
とれは程程程程程程程程程程程程程程程程
何事幣此におおしと次の事よりまじく出
三編一番まじく納は此新古事の事何事に
毛付孫亦志るくく一と人くくは故に程

表のふりよりおま之中より

一 羽柴元就が天下より新築陣中隆宗礼を
 けりしと毛利陣とお志つめられし年後より關
 原康長及び鶴羽小隆始仕三輪中いし中より
 毛委表は終はしと古關之中作中

一 上様より小早川左馬助元と六十二番石より下
 りし年ハ備中陣中毛利家陣中と新築
 とししと志つめしと後始と古關之中作
 小早川大名より終中いし細はははしと子

委表書付可中い先か様子仕より子ハす人の儀
 理字え不中い百先と如此に

一 吉川陣完戸陣ハ先馬此をるいとわく先
 兵一めたはら小早川陣ハは能始り儀を
 兵一子中いははら關廟よとと西陣より
 人を巻し終はしハ能りしは能いやらん
 又と産表のちや一あはは産はら内の折を
 不見作能舞は必定し所産は上下とと
 きく免た渡りて見し中いと彼兵隊中い

地を吉川もさすうまむは不及事あり
福のりにあ陣兵録し事

一 右に如中上の四日此夜の丑乃刻子は引拂
ひ兵録備中の園をばを致うにのひさせ
給ひ備前と云ふ被録歩入り致り福岡
乃渡り少く大なる中堂を被録可兵録
格を之と見及福是此立所を被録とく
在り此座や大百姓の人質をひくくと
此夜如く假休か此一夜も吹くを以郎成も

きみ悪くも云は思也為ま人質とお使え中假
掘園中此川たちをそくきくくし水やとい
兵録先備前と八郎成まの先子人数一人を
死にとさけ被録し事

一 所自分此人数一人もは死落しなく水道
具以下迄恙なく兵録被録以次第ハ先又さう
り死す次り又あたりはく次録し
所より被録兵録以注意ハ如格の時ハ一人一人
おとりの地を五百も云ふも換しをる様子

中亦以そのやむ物多一荷を担くしと故に
百石も二百石も流しと程の中亦以そのや
む静し川越しせよと下知新井川と
に新井河津と處へ森部八郎着毛利家と
其子細五日乃四ッ過引退中い少しも子細
其河津に如所意堤と成十二三ヶ所も切放
し中候事

一 其邊より毛利家へ子細押出立新井川を度
に表しおみく陣和談と中如し其の誓紙

と如く免死上と事ふりやくの程に下思言と
とも弓馬の道はかゝりのりもまはりの儀と
下思言に我若信長公と明智日向守先秀等道
にありしなりと尚月二日と事討し言と水上
光秀と若此帛合戦は歩死乃覚悟しり此
言は善又拙者武運もさうしと右の中
談もく處は目如度は兼は可將歩意覚悟
候天下此は是所むかひ存に於自是可將
意は若川後河守為小早川左衛門元俊

完戸備前守殿上とは状に子飛拵毛打家へ
召進にそれより被渡りは誠は誠とお聞え
申す事

一 備前守國基山越く来しうは八郎殿いとや
く城上へ入る哉と申立寄り申すとも急
此中より百六馳走に相中寄るに八郎殿内
五人あり事寄元岡豊最昭石飛騨正戸川守吉事
花房助玄衛長船又た是つ此五人は石寄と被
佐守に括子と八郎殿と同道仕召より度

作へとも安藝の輝元此度幸と可と思立
となは六軍たるをくの間可進にさゆる見出
しと此ありより近先勢六七子流き来り時
分寄人元は出有無此一合戦とれよう他
事市を荒毛も角も阿達城下の合戦を大
事の物とくは引合はるいさとも志月
うふ付送は款手痛く二三度は出逃しを別
り子細を寄るに款と被寄と成れくよと見え
及しを味方登り人を虎此小巻もたたく静し

三十一

と可引西志也此城を利一人が破る
 事之中にお少いもよくと家来が死す也
 一 身城を定くるに計を可中のも内より
 討大将人数五百と計し二百二百と
 三組より分て身城を攻中一と一と一と
 討と討と討と皆く討者よく討及中の始
 地と歸城はよくも三日と逗留仕す一と一と
 ときよく出光秀と可女采覚悟あり若左
 右吉自是可中者也此はよくと一と一と

みくく志山は八巻は寄書より通る事

一 勢進より馬をともや免ら程修定は道を
 うう方くよくと此早飛奔を其れ中よく
 津の国大名元中川瀬兵衛高山右近塩川
 黨以下此人よくと一と一と進状文新吉を
 同篇にお聞え中の惟任日向よくと一と一と
 乃此城は仕置に足下は西國と無難此の如
 きよく事扱者式よくとおくよくと一と一と
 光秀何事討引はのよくと一と一と

三十一